

数値目標

施策の柱	項目	基準値	目標値
Ⅰ	実質市内総生産（年間）	1,244,490百万円 （2020（令和２）年度）	1,420,800百万円 （2028（令和10）年度）
	観光消費額（年間）	88億円 （2020（令和２）年度）	200億円 （2028（令和10）年度）
Ⅱ	年少人口（０～14歳）	32,965人 （2023（令和５）年度）	34,000人 （2028（令和10）年度）
	18歳以下の子を持つ 18～39歳の子育て世帯の社会動態	▲51世帯 （2022（令和４）年度）	150世帯 （2028（令和10）年度）
Ⅲ	水戸市が住みやすいと感じる市民の割合	72.3％ （2022（令和４）年度）	75％ （2028（令和10）年度）
	災害に強いまちづくりに満足している 市民の割合	27.3％ （2022（令和４）年度）	45％ （2028（令和10）年度）
Ⅳ	15歳から30歳代の市民のうち、 今後も水戸市に住みたいと思う人の割合	29.3％ （2022（令和４）年度）	50％ （2028（令和10）年度）
	18～39歳の社会動態	52人 （2022（令和４）年度）	250人 （2028（令和10）年度）

各施策をより効果的に推進するためのデジタル化・DX

便利さを実感できる「行政のデジタル化」

本市の窓口における手続きや各種支払をはじめとした市民サービスにおいて、新たなシステムの導入やキャッシュレス決済の拡充等を進めることにより、利便性の向上に取り組みます。

また、シティプロモーションにおいても、デジタル媒体を活用し、時代に即したプロモーションを行うことで、より効果的に情報発信に取り組みます。

産業特性や産業構造に適応した「まちのデジタル化」

交通や医療など、準公共的な社会インフラに効果的にデジタルを取り入れることにより、市民の暮らしを豊かにしていくとともに、産業ごとの特性にあわせたデジタル技術の導入を積極的に支援することで、各産業における生産性向上や高度化に取り組みます。

誰一人取り残さないための「デジタル格差対策」

年齢や経済状況、障害の有無等にかかわらず、全ての市民がデジタルの利便性の恩恵を受けて生活することができる、デジタル格差のないまちを目指し、市民のデジタルスキルの向上を図るとともに、格差の要因についての調査・研究を進め、その是正や未然防止に取り組みます。

また、デジタルとアナログそれぞれの強みと弱みを研究し、デジタル化を推進する中でも、デジタル一辺倒にならず、より最適な手段を追求することで、より確実な格差対策を図ります。

若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略
- デジタル×まち・ひと・しごと創生（第3次） -
概要版



戦略の基本事項

策定の趣旨

本戦略は、将来的な人口減少が避けられない中、若い世代の人口流入の促進及び人口流出の抑制を図ることで、バランスのとれた人口構造とし、将来にわたってまちの活力を高めていくために策定するものです。

期間

2024（令和6）年度から2028（令和10）年度までの5か年

基軸とする三つの視点

まち・ひと・しごとの好循環

「しごとの創生」「ひとの創生」「まちの創生」それぞれの取組を深化、加速化することにより、相互に効果を高め合う「まち・ひと・しごとの好循環」を生み出していきます。

若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出及びシティプロモーションの重点化

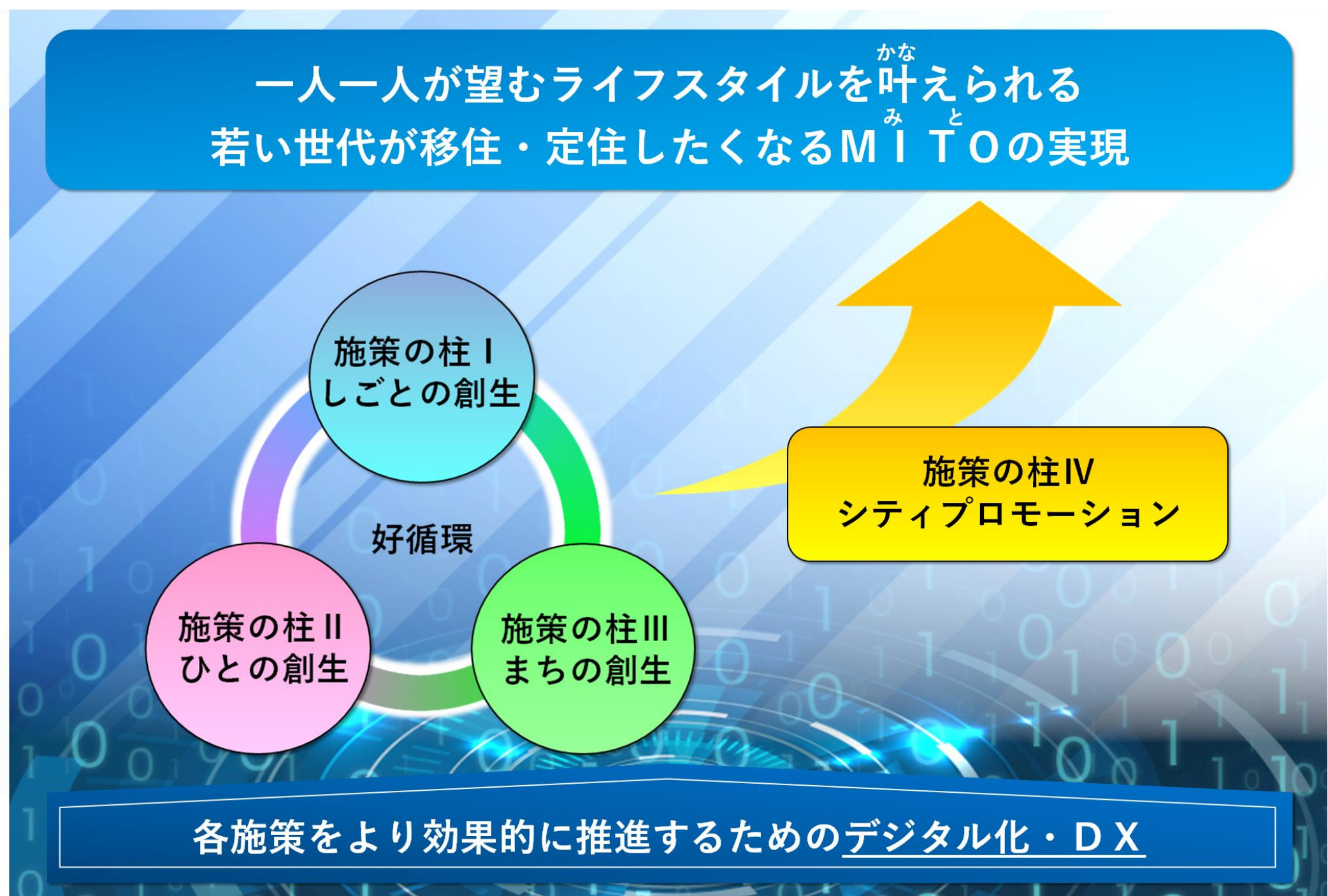
魅力ある多様な働く場があり、様々なライフスタイルで暮らすことができるまちの実現に優先的に取り組むとともに、若い世代に住みたい、住み続けたいと思われるシティプロモーションを図ることに重点を置き、若い世代の移住・定住を加速させていきます。

デジタル化・D Xによる各施策の推進

あらゆる分野でデジタル技術を積極的に活用し、各施策をより効果的に推進していくことにより、「まち・ひと・しごとの好循環」の実現を支えます。

戦略の方向

総合戦略全体のイメージ



施策の展開

施策の柱

I しごとの創生	II ひとの創生
基本目標 持続的な経済発展による豊かで楽しめるM I T Oの実現  雇用の創出や各種産業の振興を図るため、創業・スタートアップ支援や企業誘致による事業所数の増加、地域経済の中核を担う地元企業への支援、様々なライフスタイルにあわせた働きやすい環境づくりに取り組みます。 あわせて、観光振興をはじめとしたにぎわいの創出にも取り組み、地域経済のより一層の活性化を図ります。	基本目標 未来を創る力あふれるM I T Oの実現  こどもを生みたいと望む人が、安心してこどもを生み育てることができるまちづくりに取り組みます。 あわせて、一人一人の個性を伸ばす教育による夢を応援する環境づくりや郷土を愛する心を育てる教育、多様な体験機会の提供等を通して、こども・若者の未来を生きる力、未来を創る力を育みます。
III まちの創生	IV シティプロモーション
基本目標 誰もが安心して暮らすことができるM I T Oの実現  誰もが生涯を通して生き生きと健やかに暮らすことができる環境づくりに取り組むほか、あらゆる事態に備えた危機管理体制の強化を図ります。 あわせて、時代の変化に対応した都市構造や交通ネットワークの構築等により、快適なまちづくりを進め、誰もが安心して暮らすことができるまちを目指します。	基本目標 住みたい、ずっと住み続けたいと思われるM I T Oの実現  時代に即したメディアを効果的に活用し、様々な視点から「まち・ひと・しごとの好循環」により高める水戸の魅力をわかりやすく魅力的に伝える情報発信に取り組みます。 あわせて、一人一人に寄り添う移住相談体制の充実や移住体験の推進等の移住を後押しする施策の充実を図ることにより、若い世代の移住・定住を促進します。

若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化

- 1

若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出

若い世代の移住・定住には、「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」が求められています。
そのため、本市では、創業・スタートアップの促進や企業誘致等によるまち全体の雇用の拡充に優先的かつ重点的に取り組みます。
それによって、新しいアイデアや知識、技術等を持った若い世代が集まり、地域のイノベーションが促進され、各種産業の活性化やサービスの進化が起きることで、新たな働く場の創出につながっていく好循環を生み出していきます。
- 2

若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション

若い世代の移住・定住に向けては、若者に本市に住みたい、住み続けたいと感じてもらう必要があります。
そのため、水戸の魅力を幅広く高めることはもちろん、居住地を変えるきっかけとなる進学や就職、結婚等のタイミングにあわせ、一人一人が望むライフスタイルに応じた魅力を戦略的に伝えることが重要です。
そのため、本市では、多様な手法によるプロモーションの推進とともに、移住への意識が高まった方に対する移住を後押しする施策の推進、魅力ある働く場のP R等に重点的に取り組みます。